

大阪市立横堤小学校 令和元年度 校長経営戦略支援予算【**基本配付**】実施報告書
(補足説明資料)

本校では、保護者及び児童アンケートの分析を踏まえ、『横堤小学校 学校教育改善アクションプラン』を策定し、教育活動の向上をめざし取り組みを進めている。今年度は、2つの「きょういく」『共育』(大人も子どもも共に学び育つ教育)・『響育』(心に響く教育)をテーマに、教育活動の改善に取り組んでいる。

1 取組内容について

1-1 取組を実施する必要性

全国学力・学習状況調査や、学力経年調査の調査結果から、本校は算数に比べると国語の正答率が低い傾向にある。この課題に対して、今後、子どもの読解力の向上に取り組んでいく必要がある。そのため、現在取り組み中の「学校教育改善アクションプラン」の内容の深化・充実を図っていくことが今後の取り組むべき課題と考える。

また、各種アンケート結果から、道徳心に対する項目が他の項目よりも低いことがわかる。

上記の課題を解決するために、教育振興基本計画における【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】の一環として「①プログラミング教育の推進と来年度の本格始動に向けた指導計画の策定を行うため、外部講師を招聘して研修を行う」ことを実施した。

また、【施策2 道徳心・社会性の育成】の一環として「②劇鑑賞や③読み聞かせを行う」ことを実施した。

1-2 取組を実施することにより期待できる効果

教職員の研修を充実させることで、児童の学習に対する興味・関心を高め、子に応じた指導方法を研究するとともに、教員の授業力向上につながることが期待できる。

また、児童が「本物に触れる機会」を作るなど、心に響く教育活動を実践していくことで児童の道徳心の向上が期待できる。

1-3 具体的な実施内容

① 校内研修の充実

- ・外部講師を招聘し、行内の研修を年間20回以上実施した。

② 劇鑑賞

- ・劇団を招聘し、低学年と高学年それぞれの発達段階に応じた演目を実施した。

1-4 取組に対する達成状況（A～D）及びその評価理由

① 取組に対する達成状況：B

- ・小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は 70.5 ポイントで、昨年度から 1.9 ポイント上回ったが、大阪市の平均からは 3.5 ポイント下回ったため、B 評価とした。

②③ 取組に対する達成状況：A

- ・児童アンケートの「友だちを大切にしている」の項目については、低学年で 93%、高学年で 91% の児童が肯定的な回答であった。また、児童アンケートにおける「しっかりとあいさつや返事をしている」の項目について、肯定的な回答は、低学年で 94%、高学年で 87% であったため、A 評価とした。

2 総論

2-1 年度目標の達成状況、総評

本校では、上記の取組を実施することにより「①小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。」という年度目標に対して、4 教科合計の標準化得点を同一母集団で比較したところ、4 年生では 1.0 ポイント上回り、5 年生では 0.2 ポイント下回った。6 年生は昨年度と変わらない結果であったため、B 評価とした。

児童質問紙から、「授業の内容が分かる」という児童が全国平均を上回ったことや、児童・保護者アンケートの「授業が分かりやすい」項目について、肯定的な回答が 90% を超えていることからも教員の授業力の向上が確認できる。今後も引き続き、基礎基本の定着とその活用や応用を図る授業に取り組み、個に応じた指導の工夫に努めていく。

以上の結果から、年度目標に対する達成状況を「B」評価とした。

2-2 学校協議会における意見

- ・全国学力・学習状況調査や学力経年テストの結果を見ると、おおむね学力的には力をつけているようである。
- ・些細な「いじめ」をどのように改善していくかが課題である。コミュニケーション能力をしっかりと身につけさせることが大切だと考える。ネットゲームでのつながりも課題であるし、現実と非現実の区別がどこまでついているか心配である。ゲームではなく、友達と遊ぶようにし子どもどうしでコミュニケーションをとることができれば、間違った方向へ行ったり、不登校になったりすることも少なくなるのではないかと思う。